

かなり大事な話

平成十八年七月の外国人を除く蒲郡市の人口は八万一千六百三十二人となっています。これは昨年度の同時期よりも百人程度減っており、十年前と比べれば二千人も減っています。ちなみに登録された外国人は千七百八十一人(要調査)です。

これに対して豊川市はこの十年で五千人近くも増えています(二宮町との合併後の人口は十三万七千八百八十五人)。そればかりか宝飯三町全体としても増加しています。これは注目すべき問題です。

単純に人口増加を求めれば良いとは限りません。交通事故や犯罪件数の増加にも注意を払う必要があります。



国道 151 号線(東名豊川インターチェンジ付近)

す。しかし、計画的に居住区域を開発したり、生活道路の充実を図ればこれらの増加を防ぐことができます。原点は見える街「見られる街」です。

実は、豊川市はこの街造りを今も進めています。そして、自身の持てる潜在能力をフルに発揮してもいます。大規模区画整理や工場誘致も、現代の農業政策の中では最良の選択でした。東名高速道路や国道一号線は市の発展を後押ししています。大型店舗が増える中で、蒲郡市ほど個人商店が衰退しているわけではありません。飲食店も増え、結果として安く美味しくメニューが並んでいます。若々しい街でありながら市の中心部に旧所名跡もあり、高齢者にとっても生活しやすいでしょう。このように、多少の不安点はあっても豊川市が良好な経済サイクルをつかんでいることは間違いありません。

言つまでもなく、宝飯三町は豊川市に歩調をあわせ、将来を見据えているでしょう。

少し北上して、新城市はいかがでしょう。同年七月の調査では千二百人減の五万二千三百六十九人となっています。これには旧鳳来町、旧作手村の減少分が含まれています。しかし、街を発展させるビジネスチャンスは目

の前に来ています。第二東名高速道路です。直近のビジネスモデルは豊川市にあります。しかも、互いの中心市街地はたったの十五分で結ばれているのです。豊川の流れのもと、両市民の生活態様にも近いものがあります。

このように考えれば両市が求め、向かうべき新しい枠組みが見えてきます。海、そう国際港です。ところで、豊川市と豊橋市の中心市街地は二十分程度で結ばれています。古来より両市(奥三河も含め)は深い繋がりがありました。目も心もそちらを向くのは当然です。



国道 151 号線
(第2 東名新城インターチェンジ付近)

転じて西方を見てみましょう。岡崎市も幸田町も好調な企業に支えられ人口は増加しています。これも積極的な企業誘致と計画的な開発のもと、

そこに携わる人々のたゆまぬ努力の賜物であることは間違いありません。

西尾市も同様で、市域はすでに吉良町にまで及んでいると言っても良いでしょう。もちろん国道二十三号線パイパスが有効に使われていることは言うまでもありません。

翻つて蒲郡市はどうでしょう。他の自治体と同様に努力してきたことは確かです。企業誘致のために大規模な海浜埋め立てをしました。外国船の入れる港湾があります。宅地開発もしました。ハードの面では他に引けを取らないほど揃っています。それでは何が足りないのでしょうか。道路でしょうか。運も実力の内と言いますが、本当でしょうか。結局のところ、本気の努力がなかったのではないのでしょうか。いずれ国道二十三号線バイパスが通ります。中部国際空港セントレアとは海でつながっています。もちろんJRや名鉄もあります。このように蒲郡市は高い潜在能力があるにもかかわらず、うまく利用されていないことは確かです。例えばJR塩津名鉄競艇場前駅の場合。ここには蒲郡駅と同様に市内各所から乗り換えなしで来られます。地の利を利用し切れていないことは明らかです。ただし、このよう



整備が進む蒲郡駅南口付近

に一つ一つ問題点や必要なものを挙げていただけでは求める未来図は描けません。先ず一本の大黒柱を建てなければなりません。

昨年度、都市計画マスタープラン住民会議が行われました。市民の皆様からその場で多くの発案がなされました。それらを市の基本計画に取り込むことになっています。ところでその基本計画は平成十二年にできたものです。基本計画のための会議はそれ以前から始まっています。現在でもそれが利用できるかどうかは考慮しなければなりません。例えばこの五年間で他市には大きな飛躍がありました。人口が同程度だった西尾市は、いまや十万人人口になっています。これは蒲郡市が目指していた人口で、明ら

かに遅れをとってしまった。これの意味することは、他市と同じ目標を掲げ、同じ努力をしていますが水を開けられるばかりだということです。したがって、独自色があり個性豊かな街を目指すべきでしょう。

夢を語ろう

平成初頭、繊維の街を謳えるほど蒲郡市は糸偏の産地でした。いまや産地は中国に移り、仲間問屋は物流の拠点、神戸や名古屋に足を運んでいきます。蒲郡市が物流の拠点を目指すならば、喫水十六メートルのコンテナ埠頭が必要です。しかし、周辺の大企業や今後の道路整備計画から、地の利はあり、単なる企業誘致より目指す価値はあります。

アメリカのラスベガスは、日本人にとってはギャンブルの街ということですが、実際は劇場、映画館などが数多くあります。多目的施設ではプロレスが行われたり、去年は相撲巡業も開催されました。ギャンブルだけでは街の発展はないと見越した彼らの努力が巨大なエンターテイメントシティを生み出しました。蒲郡市はこれをビジネスモデルとすることができるとしよう。西浦から大塚へ直通の観光道路を通すことで、風光明媚な自

然はもちろん、三谷、形原、西浦の温泉街、ラグーナ蒲郡、競艇場も取り込んだ総合アミューズメントシティを生み出す潜在能力を引き出せます。浜町には劇場や映画館を誘致しましょう。セントレアから船旅を楽しんで頂きながらお客様に来て頂くことも



三谷町弘法山からの蒲郡市遠望…この街は大きな潜在能力を秘めている

できます。競艇場駐車場上空を利用したハイドパーク(ロンドン)のような都市公園も良いでしょう。モデルは愛知万博で設置されたグロバルブルーです。JR塩津駅など公共交通手段を使い、気軽に市民の皆様にご利用して頂けるでしょう。単純に良いところ取りをしているようですが、ここからどこにもない個性ある街が生まれてきます。残された課題は「本気の努力をする」ことです。

自己紹介

新実祥悟
にいみしやうご

昭和三十年生まれ

身長 180cm 体重 70kg

住所 蒲郡市鹿島町西郷八九

電話(FAX) 08-4615

公的経歴

消防団第七分団班長

地区体育委員

鹿島町区議員(青少年健全育成担当)

塩津中学校PTA会長

蒲郡市指定管理者選定委員

都市マスタープラン立案住民会議員

保護司(蒲郡保護司会理事)

その他の経歴

元会社役員

衆議院議員元秘書